

みんなが楽しく生きるために

小学校五年

私が、ある日友達と遊ぶ約束をしようとしたときになっ得できないことが起こりました。スマホを持っていないという理由で仲間外れにあったのです。言葉にできない大きいもやもやが心に刻まれてしまいました。

一方、学校では総合的な学習の時間に福祉について学びました。昔は病気にかかったり、障がいがある人に対して、偏見をもったり差別したりする人が多かったと聞きました。その話を聞いて、「ええっ。それはおかしいわ。」と思いました。そして同時に世の中には、おかしいとわかっていて、なぜ偏見をもったり、差別をしたりする人がいるのだろう。自分とちがうことが、そんなに変なことなのかと思いました。

人間なので、好みがあったり、合う・合わないがあったりするとは思いますが、ちがいがあって当たり前ではないでしょうか。だれに対しても、ゆ快な温か

言葉を発すれば、人間関係が上手くいきます。だれに対しても、不ゆ快なちくちく言葉は許されないのではないのでしょうか。なぜなら、障がい者の方々は障がい者になろうと思っでなっでいないでしょうし、そもそも、自分のことを障がい者だと思っで生活してない人もいるからです。自分に障がいがあると仮定してみると、障がい者の方々のように力強く生活できるのだろうか。難しいのではないだろうか。自信もないなあと思っでました。こんなにたくましく生活している人に対して、失礼だと思っでます。逆に私たちは、前向きな方々から学ばなくてはいいけません。

私は、このことから、次のことを実せんしようと思っでます。人間失敗はつきものですが、失敗したらすぐに謝ります。人間なので偏見ゼロというのは難しいかもしれないませんが、良いところを学び合える人付き合っで心をかけようと思っでます。そうすれば、そこには、互いにそんなけいし合える関係が形成できると思っでます。常に温か言葉が飛び交う世界を目指していいこうと思っでます。